

演題名	飯伊地域における受精卵移植の成果と展望		
発表者 氏名	月岡光彦	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>管内における現在までの受精卵移植（ET）の実施状況、ETを実施している団体（団体）へのアンケート調査から、ETに関する現在の課題と今後の推進方向を検討。</p> <p>ETの実施状況は、採取した正常卵は、年々増加がみられ年間300個以上が確保されているが、採卵1回当たりの正常卵数は4個未満と少ないため農家に高いリスクを負わせている。受胎率は増減を繰り返しながら上昇しているが、40%以下に低迷しており満足いくレベルではない。受精卵の品種は、牛肉の輸入自由化に伴い黒毛和種がほとんど。受胎頭数は、移植頭数の増加に伴い増加。根羽子牛市場へのET産子の上場は年々増加し、平成5年度は12月市場までに56頭上場されており、上場頭数に占める割合は8.1%に増加。</p> <p>8団体に対するアンケート調査では、半数以上の団体が事業量増加の意向があるものの、受精卵が不足していることが課題と判明。</p> <p>今後は、受精卵供給対策として、県外生産卵の計画的な購入、体外受精卵の利用、未経産肥育素牛の供卵牛としての利用が必要と考察。</p>			